

2023年11月15日

令和5年度第2回 海岸工学委員会委員会議事録

開催日時：令和5年11月15日（水）18:10～20:00

開催場所：京都テルサ 第4会場（対面）およびWeb（Zoom）によるハイブリッド会議

出席者：

【オンサイト】柴山相談役，岡安相談役，森委員長，北野幹事長，荒木，有川，五十里，岩前，内山，遠藤，大井，太田，織田，小野，柿沼，加藤(茂)，川崎，木原，久保田，嶋原，下園，鈴木，高川，田島，中下，中村(友)，西畑，信岡，原田，比嘉，榎田，古市（大井代理），保坂，馬込（末岡代理），宮武，宮本，安田，山城，渡辺，渡部

【Web】秋山，加藤(史)，桐，越村，中村(克)，平野

議事録：織田・北野

委員長挨拶：APAC 共同開催への協力の謝意等の挨拶がされた。

前回議事録の確認：前回委員会の議事録（WEB 公開済）を確認した。

第70回海岸工学講演会論文審査（山城小委員長，北野幹事長）

- ・審査論文数（講演会での発表数 200 編，本論文あり 154 編／要旨のみ 46 編）について，報告された（APAC 同時開催のため，英語論文は 2 編のみ，全体数の減少理由の主要因）。
- ・辞退論文理由について説明された。査読意見への対応不可と計算結果の間違いの判明。後者については，取り下げが編集開始後であったため，本件は，著者負担金を求める。
- ・J-Stage の作業について，掲載作業時にいくつか著者に修正を依頼した。
- ・参考文献のフォーマット変更に伴い，英文併記なしがいくつかあった。
- ・参考文献に，投稿中の論文を掲載している場合（規定では不可），採択済みならば最終原稿で投稿中の記載削除を依頼したが，いくつか未対応論文が残った。来年度以降の課題。
- ・論文題目や著者情報を連絡なく変更しているケースがある。
- ・著者負担金は，今回上限の 4 万円になりそうである。北大生協からアイワードへの変更に伴い費用が増加している。
- ・論文賞等の授賞式を閉会式にて執り行う予定である。

第70回海岸工学講演会の実施状況について（原田委員）

- ・オーディオインターフェースのシステムを使ったハイブリッドにアップグレードし，そのことを 1 週間前にお知らせしたとおりである。今のところ順調である。
- ・会議や企業展示の開催場所が少しわかりにくいところになっているので，司会者からセッションごとに案内いただいていることについて報告があった。
- ・APAC について，問題なくスケジュール通り進んでいること，投稿数(291)ならびに参加

登録数(290)等について報告があった。レジストレーション（見込み 300 で当初設定）は、ほぼ見込み数に到達した。

- ・ 予算について、海岸工学講演会は当初よりも予算は低く収まる予定。
- ・ APAC は、若干の赤字 (-20 万) で収まる予定である。

第 71 回海岸工学講演会の準備状況について（渡辺委員）

- ・ 来年秋田での開催の準備状況について報告があった。
- ・ 日程・開催地：2024 年 11 月 6 日～8 日（5 前日準備）秋田市
- ・ 会場：公共施設アトリオン（予約済）、2 会場予定であったが 1 会場で収まる予定。
- ・ 懇親会は講演会場付近で検討中（キャッスル、ANA クラウンプラザ）
- ・ 講演会は対面形式のみ、懇親会（ANA クラウンプラザ）や見学会を実施予定。
- ・ 講演会と委員会の会場費の概算額（計 235 万：議事録案回覧時に補正）が示された。
- ・ コンベンション助成対象であることを確認済み。
- ・ 地整への後援、見学、懇親会での挨拶について依頼、了承済み。引き続き調整。
- ・ 今年の海岸工学講演会の登録者は約 800 名（オンサイトとオンラインの各会場の聴講者数は、別添参照）、APAC のオンラインは少ない。来年度は対面のみでの開催であり、申込者数としては、オンライン分がいくらか減るかもしれないが、オンライン無し（対面のみ）と最初からアナウンスするので、会場参加が（元どおりに）増えるとも考えられる。

第 72 回海岸工学講演会について（中下委員、北野幹事長）

- ・ これまでの開催地を確認し、2025 年度は、中国・四国・西部地区のうち、香川で開催される予定で準備していることが報告された。
- ・ 日程：11/25～28 を予定。（瀬戸内芸術祭を避けるため、例年よりも遅い）
- ・ 特に地方の場合、会場係（学生）が足りない可能性がある。翌年、翌々年開催予定の担当委員にも実行委員会に入ってもらい学生にも協力してもらおう案を検討中である。次回幹事会で議論予定。

第 58 回水工学に関する夏期研修会（B コース）開催について（渡部委員）

- ・ 夏期研修会の実施状況について、報告があった。
- ・ 完全対面で実施した。オンラインでは地方開催の意義が薄れる。
- ・ 参加者 A コース 53、B コース 59 で例年よりも少ない。所属で最も多いのはコンサル、地域は関東が多い。
- ・ アンケートの結果。内容に加えて、対面開催も良かったの回答が多い。研修会として初めての試みである懇親会が開催されたことも好評であった。
- ・ 今後の希望テーマをアンケートで取っているので、今後の参考としてほしい。

- ・参加者数が少なく、36万円の赤字。対面のみ（オンライン参加を不可）としたことが、その理由の1つと考えられる。

第59回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について（遠藤委員）

- ・次年度の大阪での準備状況について報告があった。
- ・今回は、海岸工学委員会が幹事となる。
- ・日程：2024年8/29,30（幹事会報告時から変更）、場所：大阪公立大学
- ・テーマ：水工学分野に関するモニタリング技術
- ・対面のみで実施予定。関西なので参加者は多いと思われる。
- ・講演者は依頼中。AB共通コースとして2名依頼予定。

Coastal Engineering Journal について（内山小委員長）

- ・2022年のIFは2.4。2021年から下がった。2020年のIF計算方法変更に伴い2021が高かったため、ある程度想定内である。ただし、2021年頃公開論文の引用数が減っている。
- ・客観的評価によるCEJのカテゴリは、現在、Q2（過去には、Q1となったこともある）。
- ・投稿から掲載までの時間は比較的早くなった。投稿から半年以内には掲載出来ている。
- ・特集号として、2024: Progress of Ocean Wave Measurement, 2025: Interdisciplinary Exploration of Coastal Morphodynamics（漂砂、土砂）を準備中。
- ・投稿国は広がっているが、日本からの投稿が少なめである。
- ・各賞の紹介があった。JAMSTEC中西賞については、閉会式で挨拶頂く予定。
- ・出版社であるT&Fに編集ミスがあり、抗議済みである。
- ・出版社は、複数のPrint Editorの会社と契約している。きちんとクレームを入れた方がレベルの高いPrint Editor会社を割り当ててくれるので、今後も必要に応じてクレームを入れるべきである。クレームすべき点があれば、内山小委員長に報告いただければ、対応する。

沿岸域研究連携推進小委員会（遠藤小委員長）

- ・活動内容について議論してきており、今回、前日シンポを開催したこと、今後も活動を活発化していきたい旨の報告があった。

広報・出版・WEB開催小委員会（荒木小委員長）

- ・広告数、企業展示についての報告があった。
- ・今回の企業展示の部屋が離れているので、委員の方は可能な限り、訪問して欲しい。
- ・海岸工学講演会のプログラム掲載（広告含む）に関する報告があった。
- ・オンラインの状況について、今のところ順調でありこと、APAC開催に伴うZoomのライセンス増に伴い若干支出が増えていることの報告があった。
- ・海洋学会では、企業展示で就職相談のコーナーを設けている（コンサル系が出展）。企業

展示を増やす手段として検討していく。ただし、建設会社を考えると学会参加者が就職相談に乗るのは厳しいかもしれない。委員からの意見として、関西支部では、建設技術展と同時開催にして、学生に好評だったというコメントもあった。

研究小委員会、研究会、WG の活動について

(1)沿岸まちづくりにおける経済学的手法研究小委員会（安田小委員長）

・これまでの委員会活動内容の報告と、昨日、小委員会を開催し、リアルオプションの適用に関する今後の展開について議論があったことが報告された。

(2)沿岸災害デジタルツイン研究小委員会（越村小委員長）

- ・勉強会（9月）、前日シンポの活動報告があった。
- ・前日シンポのウェblinkが100名限定となっていたため、アクセスできなかった参加者おられるため、後日録画を可能にする予定である。
- ・WG毎に成果が出始めたので、今後はWG同士の連携を強化する。

特命WGについて

(1)サーバーセキュリティ対策特命WG（川崎主査）

- ・新メーリングリストへ変更済みであることと、サーバー移行に伴う予算の説明があった。
- ・個人情報等の管理を広報小委員会に引き継ぐ作業を実施中である。
- ・新しくメーリングリストが必要であれば、作成可能であるので依頼して欲しい。

(2)海岸工学論文投稿査読新システム検討特命WG（北野幹事長）

- ・作業状況および投稿フロー等について、報告があった。
- ・中村委員が新メンバーとして加わった。
- ・投稿者向け説明会を1/16開催し、その後の質問等対応として第2回を開催予定。
- ・12月に副査向け説明会（Zoom）を開催予定。
- ・幹事会の際に、主査向け説明会の開催を検討中（上記、いずれも録画公開予定）
- ・発表要旨はgoogle foamで申込。文字のみの要旨査読を主査のみで実施。
- ・スケジュールはこれまでとほぼ同じ予定であるが、査読結果の報告期間に幅があるため、修正期間が論文毎に異なることになる。
- ・Editorial Managerへの変更に伴い、主査が副査を登録する作業が発生する。各副査の担当数が分かる表（副査No.で標記）を配布する。
- ・審査点数を20点満点から、通常号に合わせて16点満点に変更とする。Editorial Managerでの入力が難しいため、主査に取り纏めて報告してもらう。主査の作業がいくつか増えることになる。
- ・現在の要旨集は、テキストだけのものになる。

(3) 海岸工学2040特命WG（渡部委員）

- ・WGの目的や概要について説明があった。

・海岸工学の今後の展開のため、公募でメンバーを選出し、議論を開始する予定。

(4) 省庁連携特命 WG (田島委員)

・海岸事業を扱う省庁の連携を学会として取り組むことについて、WGの目的や概要について説明があり、成果というよりも場を設けることを目的とする旨の説明があった。

その他

(1)CICHE-JSCE シンポジウム (北野幹事長)

・台湾土木学会からの依頼で、海岸工学委員会から木原氏に参加・発表していただいた。

(2)JSCE-CCES シンポジウム (北野幹事長)

・中国土木学会とのジョイントシンポジウム

・10月から来年4月に開催を変更して調整中。

・若手の旅費補助(国際センターより)を検討中と聞いている。

・今回の対象は、水工学と海岸工学を中心に構造系も含まれていると聞いている

(3)ICCE (森委員長)

・ICCE2024はローマ、ICCE2026はテキサスでの開催が予定されているなか、日本での開催を打診されている(2024を東北大学で開催予定していたが、諸事情により取り下げた)。2028の立候補(開催場所を検討中)を考えている。

以上